

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-134	12-050	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Implicit and explicit alcohol-related motivations among college binge drinkers. 大学生の過度飲酒者におけるアルコールに関連した潜在的・顕在的な動機		
執筆者		
Herschl LC, McChargue DE, MacKillop J, Stoltenberg SF, Highland KB.		
掲載誌		
Psychopharmacology (Berl). 2012 Jun;221(4):685-92.		
キーワード		
大学生、過度飲酒、アルコールの認識、行動経済学、潜在的動機、顕在的動機、構造方程式モデル		
要 旨		
目的： 大学生の短時間の過度飲酒者では、“アルコールに対する良い期待”と行動経済学指数は関連しており、飲酒行動と異なる関連を示す潜在的・顕在的動機を反映しているかもしれない。そこで本研究では、飲酒に対する潜在的動機(アルコール購入タスク)と顕在的動機(アルコールに対する良い期待)は関連させられないだろうと考え、より大きな潜在的、顕在的な動機がアルコール関連のリスクを予測するだろうという仮説をたてた。		
方法： 297人の大学生の過度飲酒者〔女性割合 54%、ヨーロッパ系米国人 88%、アルコール使用障害者特定テストスコア(平均値=9.53、標準偏差=5.04)〕を対象とした。「アルコール購入タスク」の 3 指標は潜在的なアルコール関連の動機指標としてモデル化し、顕在的なアルコール関連指標は、“アルコールに対する良い期待”を評価する「アルコールの影響を包括的に評価する質問票」を用いて算出した。アルコール使用障害者特定テストの合計点、Rutgers アルコール問題指標の合計点、性および飲酒開始年齢を潜在的なアルコール関連リスクの変数としてモデル化し、潜在的動機、顕在的動機、アルコール関連リスクの関連を検討するため構造方程式モデルを用いた。		
結果： 飲酒の潜在的動機と顕在的動機は関連していなかったが、より大きな潜在的動機が、アルコール関連リスクに関連していた。また顕在的動機とアルコール関連リスクは、わずかに関連していた。		
結論： 飲酒の顕在的動機と潜在的動機は、問題飲酒行動に異なる関連を示した。更なる調査により、これらの要素の神経生物学的メカニズムを検討することが望まれる。		